



国労東京支部

2022年12月14日

第36号

国鉄労働組合東京支部機関紙

発行責任者 松田 恭明

編集責任者 佐藤 賢一

2023春闘を職場・地域から闘おう

支部組合員平均要求額 42,400円

「2022年度・賃金アンケート調査」を支部調査部で集約しましたのでお知らせします。

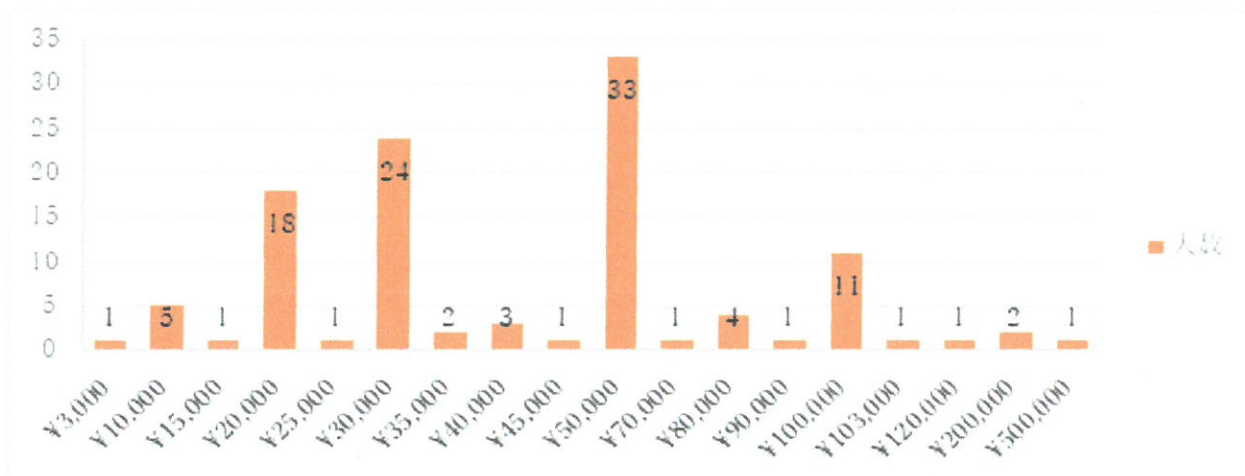
集約分会 24分会 計181人

〈質問事項〉

1、(1)毎月の生活の中で「赤字」がありますか。

1、あり 115人 2、なし 65人

(2)赤字が「あり」と回答した人にお尋ねします。赤字額は月平均でどのぐらいになりますか。



2、あなたは「来春闘」で要求する額はいくらが必要と考えていますか。要求額と、その根拠となる事柄を選択してください。(複数回答可)



要求額は50,000円が41人と最大で、平均要求額は42,400円

会社は私たちの切実な要求に答えるべきだ

〈意見、要望等〉

- 65歳以降の雇用を本人希望で何歳までも働けるように交渉してほしい。
- エルダーになり現職では仕事の内容の殆ど変わりなく仕事をしています。60歳からの賃金を現職で終わった賃金で保証してほしい。出来なければ仕事の内容をかるくしてほしい。
- エルダーの賃金が低い、大幅な賃上げを
- あらゆる物が値上げしているのに賃金は上がらないので苦しい生活だ。特にエルダーになってからの賃金で退職金を（住宅ローン返済でほぼ無い）使わざるをえない。
- エルダー組合員の金銭的待遇改善
- 組織拡大は大事であるが、組合員本人はもとより介護等で職場を去らなければならない組合員を多く見えました。安心して弱者が働き続けられるように組合があってほしい。
- エルダー賃金安すぎる。上げないならそれに見合った仕事内容量にしてもらいたい。年金支給65歳、俺がお願いしたわけではない。
- 出向先でも団体交渉を出来るようにしてほしい！
- 先が見えないので脱退か他労組へ行くなどした方が良いのかと考えています。
- エルダーの扱いには現状の進み具合をしめしてもらいたい。
- エルダー社員の賃金が低い。現役時の50%以下。せめて8割まで上げる闘いを構築しよう。
- 物価高に対して我々の賃金は下がる一方。是非とも賃上げを掲げて来春闘は粘り強く闘ってください。
- 働く事で生活が良くなる将来が見通せると思ってましたが、このところ働く事の細やかな点の正誤、型通り行っているかが大切で、成果は上手に働く事の様になってきていると思います。やはり成果は賃金が良いと思います。
- 安全で安心して年金支給されるまで働ける職場と賃金体制の確立をしてほしい。（体力に見合った作業内容、正社員と変わらない基本給など）
- エルダー賃金を改善。エルダー出向先の労働条件の改善に向け組合として取り組んでほしい。
- 再雇用で大幅に賃金が減少したのでだいぶ苦しい。
- エルダーにより以前より賃金が半分以上になり、せめても退職時と同じ賃金であってほしい。
- 安心して老後がおくれる年金を支給してほしい。
- 赤字決算を理由に賃金カットが家計を厳しくしている。今後、生活必需品を中心に14%以上の値上げが予想されている。通常の賃上げ要求では生活維持も厳しい。政府による賃上げの要求では財界は無視するであろう。労働者・労働組合として姿勢を明確に、少数限界論ではなく姿勢を見せる（怒り、不満）ことが大切です。
- もうすぐ退職だが、再就職で同一労働同一賃金になっていない。これを何とかしてほしい。
- （要求額0円としたことに）エルダーなので仕方ないと思います、ハローワークに行ってもブラックの仕事、会社もあります。JRで良かったと思います。それなりの生活をしています。何も出来ませんが、組合の役員の人は無理をしないでください。
- 主任までは一般職となった今、指導職・主任職は現行の昇進試験とは別に、在職10年で自動昇格するシステムがあっても良いのではないかと。（他労組）

東京支部としても過日の拡大分会長会議で出された意見を踏まえ、2023春闘を全力で闘っていく決意です。
具体的には執行委員会で再度議論をし、行動提起します。